

広島市中区医師会 第4回医療安全・院内感染対策管理研修会記録

(兼 第39回広島市中区医師会学術講演会)

医療安全・院内感染対策研修会参加記録

[研修会実施日] 平成 21 年 6 月 24 日 (金)

[研修会場] ANAクラウンプラザホテル広島

[参加者]

[感想・意見など]

研修会報告 (サマリー)

新興・再興感染症におけるクリニカルマネジメントーニューキノロン薬の有用性についてー

動物から人への感染症、特に交通のグローバル化に伴い世界のどこでもアウトブレイクが起こりえる時代となり、迅速かつ正しい情報の把握と解析を行うことが重要で冷静かつ的確な行動、対応が求められていると講演されました。新型インフルエンザの特徴は、感染率は季節性に比べてやや高い傾向で、病原性は中程度で若年者に感染者が多く高齢者では少ない傾向である。基礎疾患がある患者や妊婦では重症例、死亡例が多い。抗インフルエンザ薬は有効だが、感染拡大を防ぐため咳エチケットや手洗い、うがいの励行が必要である。また第2波に備えた体制を充実させることが大事である。個人及び組織での感染予防の徹底、即ち感染しない、感染させないため可能な限り多くのフィルター(マスク、消毒うがい、手洗い)をかけリスクを軽減することが重要である。また、医療機関が行う対策として換気や患者の隔離など待合室の工夫や環境清掃も必要。患者ごとの診察前後の手洗い、体液と接する場合手袋の使用、咳エチケットの徹底に加え、飛沫感染対策としてマスクの使用は推奨され医療者はサージカルマスクが効果的である。今後留意する点としてハイリスクグループ、入院患者の感染予防の徹底と重症化したヒトへの管理対応(ICU、人工呼吸器等)である。特に二次感染への対応が重要でタミフル等を投与し、3日間でも効果が認められない場合すぐに抗菌薬投与、ハイリスク患者には抗インフルエンザ薬と抗菌薬を同時投与すべきであると講演されました。

伝達講習記録

伝達講習実施日 平成 年 月 日 ()

[報告者]

[参加者]

[感想・意見など]